

## ◇ 国 語

国 7-1～国 7-18 まで 18 ページあります。

一般入試B（2月8日実施）

国語 第一問（国7－1～4）につきましては、著作権の関係上、  
割愛させていただきます。

問一 傍線部 A・B・C・D・E と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A タサイ

- ① サイノウのある音楽家
- ② 当時をサイゲンする
- ③ 社員のサイヨウ
- ④ スイサイガを描く
- ⑤ 拍手カッサイ

1

B フキヨウ

- ① コウキヨウの福祉
- ② キンキヨウを知らせる
- ③ 対応策をキヨウギする
- ④ キヨウゲンの鑑賞
- ⑤ 大気汚染のエイキヨウ

2

C ヒロウ

- ① ケツロした窓
- ② ロメン電車に乗る
- ③ ロウドウ人口の減少
- ④ シンロウ新婦
- ⑤ 名作をロウドクする

3

D ソウグウ

- ① 事件をソウサする
- ② 冬山でソウナンする
- ③ 会場がソウゼンとする
- ④ 見解のソウイ
- ⑤ ドクソウ的な作品

4

E ショウドウ

- ① 交通のヨウシヨウ
- ② 不安のカイシヨウ
- ③ ケイシヨウを鳴らす
- ④ 伝統のケイシヨウ
- ⑤ フシヨウ者の搬送

5

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア  ①理論的 ②一般的 ③道義的  6

イ  ①学習意欲 ②設定条件 ③自己評価  7

ウ  ①もし ②さらに ③つまり  8

エ  ①等しい ②同類の ③相反する  9

④社会的 ⑤普遍的

④実験結果 ⑤背景知識

④例えば ⑤特に

①等しい ②同類の ③相反する

④無関係の ⑤同居する

問三 傍線部（a）・（b）の文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

（a） 文脈

① 文章の中の文の続きぐあい

② 文の中の語の続きぐあい

③ ものごとの内容

④ ものごとのつながりや関係性

10

（b） 認知資源

① 自分を取り巻く世界について知っていること

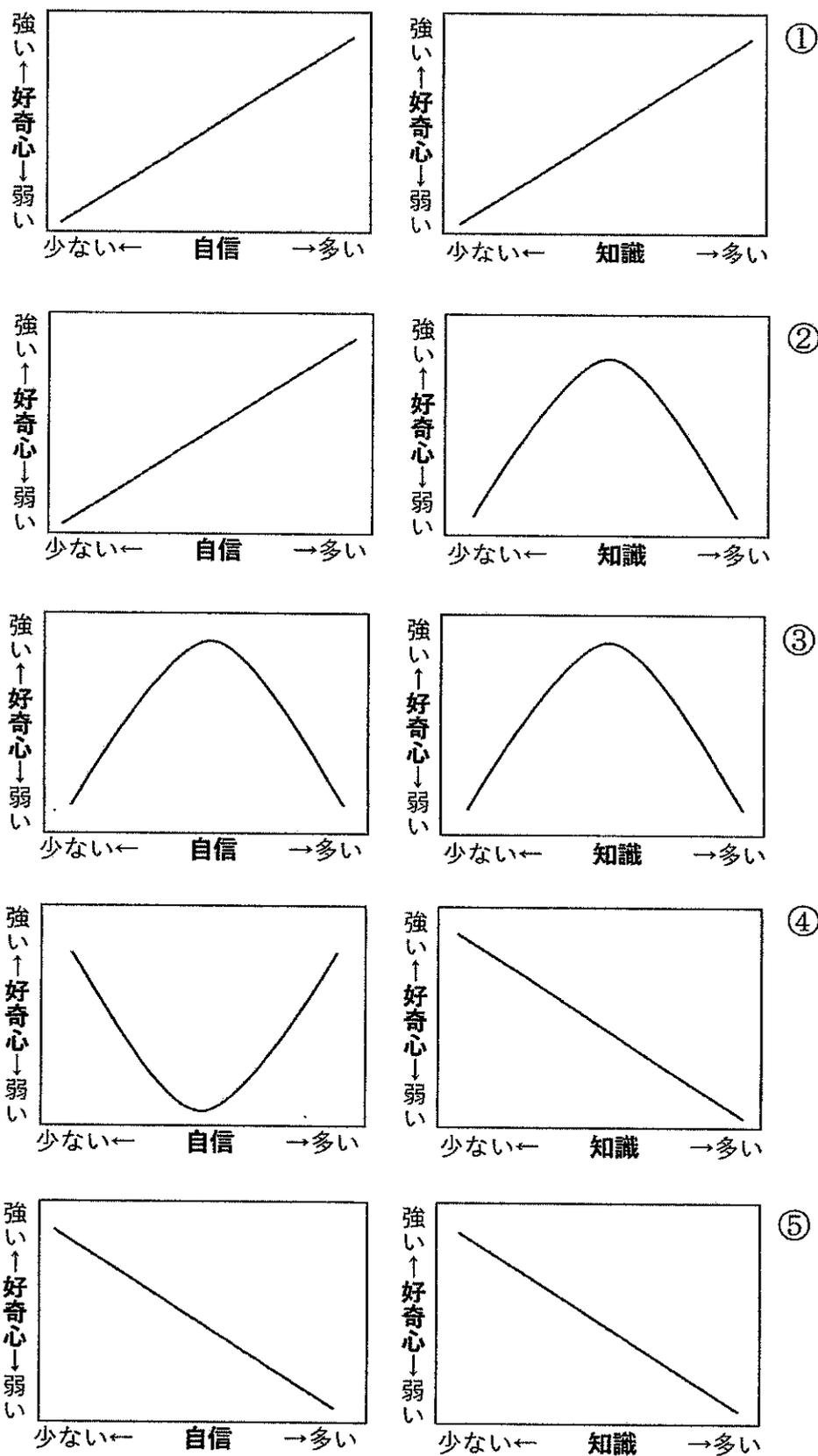
② 自分を取り巻く世界を知ろうとすること

③ 自分を取り巻く世界について認めていること

④ 自分を取り巻く世界について認めようとすること

11

問四 本文に二つの図を挿入するとすれば、どのようなものが良いか。次の①～⑤から最も適当な組み合わせを選べ。



問五 傍線部(一)「バーライン自身、その両方を持ち合わせた人物だった」とあるが、「その両方」とは何か。次の①～④の中から当てはまらないものを二つ選べ。

13

14

- ① 「拡散的好奇心」と「知的好奇心」
- ② 「物理的な探検」と「精神的な探検」
- ③ 「心理学の視野を広げること」と「興味のあることを様々に探求すること」
- ④ 「絵画の収集をすること」と「地下鉄の旅を愛すること」

問六 傍線部(二)「好奇心の奥深い本質に光を当てている」とあるが、「奥深い本質」とは何か。筆者の考えに最も近いものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

15

- ① 人の好奇心は、対象があまりにも単純であれば、刺激されないということ
- ② 人の好奇心は、対象が複雑であれば、よく刺激されるということ
- ③ 人の好奇心は、対象が極端に複雑であれば、よく刺激されないということ
- ④ 人の好奇心は、対象が単純すぎても複雑すぎても刺激されないということ
- ⑤ 人の好奇心は、対象の理解と理解の欠如という矛盾する二つの性質によって刺激されるということ

問七 傍線部(三)「その限界の外にあるものは何であれ、その人物にとっては存在しないも同然だ」の解釈として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

16

- ①人は、対象をよく知ろうと努力をするが、理解ができないと関心がもてなくなってしまふ。
- ②人は、対象をよく知ろうと努力をするが、理解ができないと、それを見ようともしなくなる。
- ③人は、自分がまったく知らないことであると、その対象について知ろうとは思っても見るができない。
- ④人は、自分がまったく知らないことであると、その対象に対して関心すらもつことがない。

問八 好奇心と学習、好奇心と子どもの関係について、本文中の内容と矛盾するものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

17

- ①好奇心が理解と理解の欠如の双方によって刺激されることは、学習の動機を捉える上で重要な視点となる。
- ②好奇心は何も知らない事柄について湧き起こる心理であるので、学習には、常に新鮮な環境を用意すべきである。
- ③対象に対する基礎的な知識がない場合、その子どもは一見、好奇心がないように見えることがある。
- ④不安感が大きい環境では、子どもは好奇心を発揮することができなくなる。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「本は、人と情報をつなぐ情報伝達的手段として生まれた」

このように考えると、本のルーツを今までとは違った視点で考えることができます。この文脈から、ある人は「琥珀こはくに虫が閉じ込められた時、本は生まれた」と言いました。これは「何かの情報」が「何かの媒体」に閉じ込められた瞬間、「本」になるということの意味しています。

しかし、本の歴史にはある程度、

ア があります。

世界最古の文明や文字は、川のほとりで生まれました。ギリシャ語で「川の間の土地」という意味を持つメソポタミアのチグリス川やユーフラテス川、エジプトのナイル川、インドのインダス川、中国の黄河や長江など、大きな川の近くで文明は育はぐまれたのです。そして、本の祖先もまた、同じようにこれらの地域から誕生しています。

メソポタミアでは、キアゲン前3000年ころから、粘土板の表面にくさび形文字を彫り、瓦かわらのように焼いたり、天日で乾かしたりして固めた、粘土製の「タブレット」を本にしました。おもしろいことに、手紙のように持ち運ぶ粘土板は焼いて固め、長く残す必要がない時は再利用していたそうです。水で練った粘土に、葦あしの茎くきを削ったペンで刻んだため、文字がくさびの形をしています。

これは、「クレータブレット（粘土板）」と言われるものです。現代人の多くが使っているiPadや電子書籍リーダーKindleなどの「タブレット」と同じようなサイズで、同じような形をしています。「タブレット（Tablet）」とは「板・テーブル」を意味する「Table」から派生aした言葉です。

『旧約聖書』では、モーセの十戒じっかいが刻まれた石板も「タブレット（The Tablet）」です。もともとは「持ち歩ける大きさの）板状の物体」のことを指す言葉だったのですが、次第に持ち歩ける「薬B（シヨウザイ）」まで「タブレット」と言われるようになりました。

このように、人間は数千年経つても、タブレット状のものを「人と情報をつなぐ情報伝達的手段」として使っているのが、とても興味深いと思います。

かつての「クレータタブレット」の優れたところは、火災にあっても残るといふ点です。

現代の記録媒体は、イが激しいものばかりです。カセットテープ、ビデオテープ、MDなどは、すっかり見かけなくなり、フロッピーディスク、CDもあまり使われなくなってしまいました。そして、いつの間にかパソコンのハードディスクやクラウド（インターネット上のカソウ空間）に一時保管するのが主流となってしまい、「長期保存」という概念は、どんどん変化しています。つまり、数年単位で、記録媒体が変化してしまっただけになります。それは、現代版「クレータタブレット」のiPadやKindleでも同じです。

そう考えると、メソポタミア全域で約3000年にわたって用いられたクレータタブレットは、とても優秀な記録媒体だったと言えます。古代バビロニア（現在のイラク南部）とアッシリア（現在のイラク北部）の古都が発掘された時、数千年前の粘土板が、一度に数万枚も発見されたことがあります。

その後、イギリスの旅行家、コウコウ学者のヘンリー・レイヤード（1817～94）がアッシリアの古都で、世界最古の図書館アッシュルバニパル王宮文庫跡を発掘した時、2万2000枚にも及ぶ大量の粘土板を発見しました。

粘土板には、当時アッシリアで知られたすべての動物の名前が種類ごとに分類され、学名と一般名の両方が記入されていました。さらに『ギルガメッシュ叙事詩』と題する全12章の長編物語があり、『旧約聖書』に記されている有名な「天地創造」や「ノアの大洪水」の伝説も書かれていたのです。

興味深いのは、これらの「クレータタブレット」に国王の印が刻まれていたことです。そして、不正持ち出しを防ぐために「この書を持ち出す者に、神は激怒して、彼を倒し、この地の家とその子孫をほろぼすにいたらん」と、恐ろしいことが記してあったのです。それくらいタブレットは、公式な記録媒体として大切に扱われていたことになります。

ほかに、「目には目を、歯には歯を」で有名な『ハンムラビ法典』も粘土板に記録されていました。占星術、農業、建築、

政治、経済、医学、地理、歴史、数学まであり、当時の日常生活が手に取るように書かれています。教科書、日記、手紙なども粘土板で発見されています。そう考えると案外、人間のやることは、媒体が変わっても進化していない気がします。

人間の生活や思考はそのまま、タブレットだけが5000年かけて、粘土からデジタルへと進化したのでしょうか。そして近年、世界で流行し始めている「電子ペーパー」のような超薄型タブレットが、近い将来には持つていて当たり前前の社会になるのだと思います。

こうして歴史を振り返ってみると、人間は太古の昔からずっと「タブレット」と共に生きてきたのであって、現代の私たちになじみのある、文庫本サイズなどの「紙の本」は歴史的に見ると例外であつたと言えるのかもしれませんが。

現代では、まだまだ紙の本が主流です。さらに人々は、だんだん紙の質感や造本、持った時の重さ、ページの開き具合などの「本の存在感」にもこだわるようになってきています。

これからの未来は、物質としての本をさらに追及することで、「情報としての電子書籍」と「物質を愛するための原始書籍（紙の本）」が ウ していくのだと思います。

「本は、人と情報をつなぐ情報伝達の手段である」<sup>(四)</sup>

そう考えると、現代社会では、インターネットそのものが「巨大な本」です。

もはや本は、紙の束たばというだけではなく、スマートフォンやタブレットもある種の「本」として定義されています。特にマンガやニュースなどは、そのスピード感から電子媒体で多くの支持を得ています。

スマートフォンは、ポケットに入れて持ち運べる宇宙のようなものです。インターネット上の情報は無限に広がり、人間関係ですらどこまでもつながっていきます。

数年前、ヨルダンの砂漠の果てで聞いた話ですが、最近までラクダの売買は「のろし」をあげて、煙で遠くの人に情報を伝えていました。しかし、今ではフェイスブックを使って取引をしているそうです。また、少し前まで、ラクダの肉が入荷した時は、

切り落とした頭を玄関に掲げていました。それが現在では、SNSなどで告知され、インターネットですべてがエ

さらに、パプアニューギニアのセピック族を訪ねた時も驚きました。裸で生活をしているのにスマートフォンを持っているのです。紙の本を読んだことがない彼らにとっては、原始時代から突然、現代のインターネット世界にまで時代を飛び越えてしまったのです。靴も履いていないのにスマートフォンで世界とつながるって、どんな気持ちなのでしょう。

私は「フェイスブックやってないのか？ 遅れてるんだな」とセピック族の青年に言われました。これは作り話ではなく、現実の社会で起きていることです。そう考えると彼らにとって、瞬時に情報が届き、持ち運びも便利な「スマホ」などの電子媒体としての「本」は、紙の本よりもよっぽど必要なのです。

日本では、まだまだ紙の本が主流ですが、発展途上国や国土が広い国では、配達や流通に限界があるため電子書籍やインターネットが好まれる傾向があります。ポリビア、ウユニ塩湖のさらに奥地、ヒョウコウ5000メートル級の場所になると紙の本は配達すらされていませんでした。しかし、どこに行っても携帯電話に表示されるアンテナはしっかり立っていました。今や、携帯の電波から逃れることのほうが難しいくらいなのです。

本を「人と情報をつなぐもの」と定義すると、こういった土地に暮らす人にとってはデジタルのほうが利便性の高い「本」なのです。もともと本を読む習慣がなかった彼らが、今になって「本」と日常的に接していることを考えると、「本」はどんどん世界に広がっているとも言えます。

(ナカムラクニオ『NHK出版 学びのきほん 本の世界をめぐる冒険』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A キ|ゲン

- ①セリフをアンキ|する
- ②「キ|リツ」という掛け声
- ③キ|コウ文学で旅行気分を味わう
- ④好きなガツキ|はギターだ
- ⑤キ|ホンのなことほど難しい

18

B ジョウザイ

- ①ケンジ|ョウ語を使う
- ②扉をセジ|ョウする
- ③いつもジョウ|ダンばかり言っている
- ④ザイジ|ョウを否認する
- ⑤ジョウ|オンの水を飲む

19

C カソウ

- ①夏休みのカ|ダイで忙しい
- ②グラスがあるとカ|テイする
- ③カ|ゲキなファツション
- ④カ|クウの人物のようだ
- ⑤美術作品のカ|チ

20

D コウコ

- ①コウ|カクレンズで撮影する
- ②前向きにコウ|ドウする
- ③コウ|エンの滑り台
- ④自らコウ|アンした方法
- ⑤葉の表面にはキコウ|がある

21

E ヒョウコウ

- ①高いヒョウ|ウカを得る
- ②選挙のカイヒョウ|結果
- ③蝶のヒョウ|ホン作りが趣味だ
- ④旅を愛するヒョウ|ハクの詩人
- ⑤イヒョウ|ウを突く表現

22

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中から、それぞれ一つずつ選べ。

ア ①仮説 ②諸説 ③逆説 ④定説 23

イ ①栄枯盛衰 ②旧態依然 ③自然淘汰 ④万物流転 24

ウ ①対立 ②依存 ③共存 ④同化 25

エ ①創造 ②構築 ③完結 ④落着 26

問三 傍線部 (a)「派生」・(b)「概念」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 派生 ①ある状態や性質が他の状態や性質に変わること ②事態が進行して新たな局面があらわれること ③ある源から別の物事が分かれ出ること ④そのものの機能がより高度に発揮されること 27

(b) 概念 ①物事を成り立たせている中身 ②物事に対する共通の思考内容 ③物事がどれくらい役に立つかという程度 ④物事を考えるときの出発点 28

問四 傍線部(一)「とても興味深い」とあるが、その説明として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ①世界最古のメソポタミア文明において粘土製のタブレットが使われていたこと
- ②古代と現代では素材は異なっているものの機能は似通っていること
- ③古代においても大切な情報はタブレットで保存していたこと
- ④どの時代にも紙の本があったにもかかわらずタブレットも同時に使ってきたこと

問五 傍線部(二)「人間のやることは、媒体が変わっても進化していない」とあるが、著者がそう考える理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ①世界最古の図書館から現代も使われている分類法で記録された生物学の粘土板が発見されているため
- ②古代アッシリアにおいても現代と同じく図書館の本を無断で持ち出す行為が厳しく禁じられていたため
- ③粘土板に残された記録によって、古代の人々が、媒体に字を書き付ける生活をしていたことがわかるため
- ④日記や手紙といった私的な記録が刻まれた粘土板から古代の人々の人生が浮かび上がってくるため

問六 傍線部(三)「紙の本」は歴史的に見ると例外であった」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 「紙の本」が登場する数千年前から「クレータブレット」が本としての機能を果たしてきたため
- ② 火災に耐える「クレータブレット」に比べると焼失してしまう「紙の本」は記録媒体に適していないため
- ③ 粘土で作る「クレータブレット」よりも「紙の本」は高価であることから普及に時間を要したため
- ④ 近い将来「電子ペーパー」のような超薄型タブレットが「紙の本」に代わると考えられているため

31

問七 傍線部(四)「本は、人と情報をつなぐ情報伝達的手段である」とあるが、その説明として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 通信回線を利用したスマートフォンやタブレットは果てしなく広がる情報をたたえた「本」である。
- ② 発展途上国では利便性の高さから、まだ紙の本が主流である。
- ③ 発展途上国におけるSNSの活用方法は現代に求められる「本」の役割を再認識させるものである。
- ④ 数年前まで「本」と無縁だった人たちもインターネットの普及によって「本」を使うようになった。

32